



2019年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年5月14日

上場会社名 株式会社ユニバーサルエンターテインメント 上場取引所 東
 コード番号 6425 URL https://www.universal-777.com
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富士本 淳
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼CFO (氏名) 麻野 憲志 TEL 03-5530-3055
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年12月期第1四半期の連結業績（2019年1月1日～2019年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年12月期第1四半期	22,638	15.8	△3,152	—	△4,486	—	△4,093	—
2018年12月期第1四半期	19,545	—	△4,369	—	75,729	—	181,402	—

(注) 包括利益 2019年12月期第1四半期 △2,096百万円 (—%) 2018年12月期第1四半期 155,526百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年12月期第1四半期	△51.86	—
2018年12月期第1四半期	2,298.20	2,291.10

(注) 1. 当社は2017年12月期に決算日を3月31日から12月31日に変更しており、2017年12月期と比較対象となる期間が異なることから、2018年12月期第1四半期については対前年同期増減率については記載していません。
 2. 2019年12月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載していません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2019年12月期第1四半期	530,551	369,229	69.6	4,692.80
2018年12月期	510,677	375,063	73.4	4,746.18

(参考) 自己資本 2019年12月期第1四半期 369,153百万円 2018年12月期 374,987百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年12月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2019年12月期	—	—	—	—	—
2019年12月期 (予想)	—	50.00	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2019年12月期 (予想) 第2四半期末配当の内訳は、「創立50周年記念配当 50円00銭」を予定しており、
 2019年12月期 (予想) 期末配当は、未定としております。

3. 2019年12月期の連結業績予想（2019年1月1日～2019年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	160,000	71.6	20,000	—	27,000	△59.7	26,000	△83.9	329.08

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年12月期1Q	80,195,000株	2018年12月期	80,195,000株
② 期末自己株式数	2019年12月期1Q	1,531,216株	2018年12月期	1,186,716株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年12月期1Q	78,935,726株	2018年12月期1Q	78,932,372株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
(4) 連結業績予想について	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(会計方針の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(4) 追加情報	9
(5) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

2019年12月期 第1四半期累計	売上高	営業損益	経常損益	親会社株主に帰属する 四半期純損益
個別(百万円)	6,138	△2,461	△3,852	△3,474
連結(百万円)	22,638	△3,152	△4,486	△4,093

当第1四半期連結累計期間における売上高は22,638百万円(前年同期比 15.8%増)、営業損失は3,152百万円(前年同期 営業損失4,369百万円)、経常損失は4,486百万円(前年同期 営業利益75,729百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は4,093百万円(前年同期 親会社株主に帰属する四半期純利益181,402百万円)となりました。

なお、事業セグメント別の業績は以下のとおりであります。各業績数値はセグメント間売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております

①遊技機事業

当第1四半期連結累計期間における遊技機事業の売上高は5,393百万円(前年同期比 47.0%減)となりました。

遊技機業界は、ギャンブル等依存症対策基本法への対応の一環として、2018年2月1日より改正規則が施行されました。顧客であるパチンコホールにおいては、改正規則機の今後の集客の可能性を感じながらも、設置期限のある旧規則機をホールの主力機として活用している状況にあり、遊技機販売市場は低調に推移しております。

このように遊技機業界が大きな変遷を遂げている中で、当社においても市場活性化に向けて改正規則に則した独自性のあるゲーム性を備えた遊技機開発を積極的に進めております。

当第1四半期においては、3月に当社の6号機第一弾となるパチスロ機『アナザーハナビ弥生ちゃん』、また、“リバイバル”をテーマとした「A-PROJECT」の6号機第一弾となる『ドンちゃん2』の市場投入を行いました。パチンコ機においては、大手ゲームメーカーである株式会社スクウェア・エニックスとのコラボレーション『Pスターオーシャン4 SWEET PREMIUM ver.』の販売を行いました。

②統合型リゾート(IR)事業

当第1四半期連結累計期間における統合型リゾート(IR)事業の売上高⁽¹⁾は16,770百万円(前年同期比 88.5%増)となりました。また、当第1四半期における統合型リゾート(IR)事業の調整後EBITDA⁽²⁾は2,842百万円となり、前年同期の20百万円から2,822百万円の増加となっております。

統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」では、当第1四半期における来訪者数の増加、マス向けマーケティング施策の更なる改善および3月の大手ジャンケット⁽³⁾の追加・運営開始等の効果により、売上高は大きく増加しました。フィリピンのカジノ業界における2018年年間のカジノ総売上高(GGR)は35億8千万米ドルとなっており、2017年と比較し22.9%の成長を遂げております。

ホテル稼働率は第1四半期を通して高い水準を維持し、平均客室単価は9,500フィリピンペソを上回っております。タワーAのホテル客室は2018年第4四半期中に全室オープンしております。

また、当社は複数の不動産事業の収益の計上に関し、当連結会計年度に収益を計上する方針で進めております。

(1) 売上高は、総売上高からゲーミング税及びジャックポット費用を控除したものです。

(2) 調整後EBITDA = 営業損益 + 減価償却費及び償却費 + その他の調整項目

(3) ジャンケットとは、VIPプレーヤー個人やVIP団体客をカジノに集客する中間業者のこと。カジノホテルは、VIPカジノルームの一部をジャンケットに対して貸し出します。

③その他

当第1四半期連結累計期間におけるその他の売上高は408百万円(前年同期比 5.4%減)となりました。

メディアコンテンツ事業においては『アレックス(2018)』のシミュレーターアプリをApp Store・Google Playにて配信いたしました。また、ソーシャルカジノゲーム「スロットストリート」では、国内向けにオリンピア社製『島唄』をモチーフにしたビデオスロットを配信、海外向けに『グランシエル』『バチヘビノッチ』などを配信し、ユーザーの皆様から好評を得ております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は81,154百万円となり、前連結会計年度末に比べ12,957百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が13,954百万円減少したことによるものであります。固定資産は448,789百

万円となり、前連結会計年度末に比べ32,887百万円増加いたしました。これは主に投資有価証券が2,085百万円増加したことに加え、その他有形固定資産が32,383百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、530,551百万円となり、前連結会計年度末に比べ19,873百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は56,255百万円となり、前連結会計年度末に比べ8,365百万円減少いたしました。これは主に短期借入金4,455百万円減少したことに加え、未払金が1,975百万円減少、その他が1,922百万円減少したことによるものであります。固定負債は105,066百万円となり、前連結会計年度末に比べ34,073百万円増加いたしました。これは主にその他が33,209百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、161,321百万円となり、前連結会計年度末に比べ25,707百万円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は369,229百万円となり、前連結会計年度末に比べ5,834百万円減少いたしました。これは主に利益剰余金が6,658百万円減少したこと、自己株式が1,172百万円増加したこと、及び為替換算調整勘定が1,893百万円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は69.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

①遊技機事業

第2四半期においては、4月に大手ゲームメーカーである株式会社バンダイナムコエンターテインメントとのコラボレーション企画「ファミスロ」第3弾として、パチスロ機『SLOTギャラガ』を市場投入しております。「ファミスロ」は、バンダイナムコの不朽の名作ゲームと当社の歴史あるスロット開発力を融合させ、“懐かしさ”と“楽しさ”をコンセプトに継続的に市場に投入していくプロジェクトです。5月には『ハナビ通』の販売を開始しております。『ハナビ通』は前作の『ハナビ』の遊びやすさをそのままに、遊び慣れたユーザーも納得させる「通」仕様となっております。

このように当社は、改正規則の施行による市場環境・開発環境の変化に柔軟かつ迅速に対応するべく、新たな取り組みや独自性を追求し環境の変化に対応する「チャレンジ」を行うことで、顧客であるパチンコホールの集客に貢献できる遊技機創出に努めてまいります。

②統合型リゾート(IR)事業

統合型リゾート施設「オカダ・マニラ」では、引き続き稼働施設の拡張に注力してまいります。

タワーBホテルの客室数がさらに増えることで、統合型リゾート(IR)事業が引き続き成長し、団体客のイベントや海外ツアー客のさらなる受け入れも見込まれます。

2019年第1四半期における調整後EBITDAの利益率は、売上高の拡大に伴う固定費比率の低下によって年間を通して利益率の上昇を想定しています。

VIP向けカジノでは、既存のジャンケットによる継続的な収益増加に加え、新たに契約予定のジャンケットによる売上高追加が期待されます。なお、ローリングチップ取扱高⁽¹⁾に対する勝率は、2.7%~3.0%を想定しています。また、マスマーケット向けカジノにおいても、マーケティング施策の継続・改善と、さらなる施設拡張に伴う成長が見込まれます。ホテル客室数や、ショッピングモール店舗、その他施設の追加によって、リゾート全体への来場者数が増え、マスマーケット向けのカジノ売上高が増加すると予想しております。

加えて、その他売上高(ホテル、飲食、リテール、エンターテインメント等)においても、段階的なリテールスペースのリースやサービス品質の向上だけでなく、継続してMICE⁽²⁾誘致等に関する計画を充実させていくことによって、収益増加に向けた取り組みを強化する予定です。

当社グループは、統合型リゾート(IR)事業の中核会社であるTiger Resort, Leisure and Entertainment, Inc.の成長を加速させるために、フィリピンにおける統合型リゾート(IR)事業の2019年中の株式公開に向けて準備を進めております。当社は、株式公開準備としてフィリピン証券取引所に上場しているAsiabest Group International Inc.の株式の66.6%を取得したことを、2019年2月4日に発表しました。今後については、詳細等が決まり次第、順次開示してまいります。

(1) ローリングチップ取扱高とは、ローリングチップ(VIP向けチップ)を使って、プレイヤーが賭けて失った額の合計です。

(2) MICEとは、ミーティング・インセンティブ・カンファレンス・エキシビションの略で、企業による会議・セミナー、報奨・研修旅行、国際会議や展示会・見本市といったビジネスイベントの総称です。

③その他

メディアコンテンツ事業においては、引き続きApp Store・Google Playにて高品質なシミュレーターアプリを提供してまいります。国内外で展開している「スロットストリート」における配信済みタイトル数は、国内版28タイトル・海外版48タイトルとなり、今後も新規タイトル及び機能追加を行うことで、ユーザー数の増加及び満足度の向上に努めてまいります。

今後もユーザーの皆様のご期待に応えるサービスを展開してまいります。

(4) 連結業績予想について

今後の為替相場の変動、販売の状況をふまえて、修正が必要であると判断した場合には、速やかに公表致しませ

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	46,076	32,122
受取手形及び売掛金	10,381	7,414
有価証券	2	1,894
商品及び製品	1,186	1,589
仕掛品	8,361	9,484
原材料及び貯蔵品	13,628	14,366
その他	14,961	14,827
貸倒引当金	△486	△543
流動資産合計	94,111	81,154
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	230,983	231,231
建設仮勘定	82,757	80,636
その他	45,878	78,262
有形固定資産合計	359,619	390,130
無形固定資産		
その他	2,388	2,300
無形固定資産合計	2,388	2,300
投資その他の資産		
投資有価証券	10,979	13,064
長期預け金	6,801	6,854
関係会社長期預け金	26,727	26,931
その他	10,108	10,235
貸倒引当金	△723	△727
投資その他の資産合計	53,893	56,358
固定資産合計	415,901	448,789
繰延資産	663	606
資産合計	510,677	530,551

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,653	6,397
短期借入金	16,846	12,391
未払金	12,781	10,805
未払法人税等	119	168
賞与引当金	78	273
その他	28,140	26,218
流動負債合計	64,620	56,255
固定負債		
社債	65,511	66,359
退職給付に係る負債	116	132
その他	5,364	38,574
固定負債合計	70,993	105,066
負債合計	135,613	161,321
純資産の部		
株主資本		
資本金	98	98
資本剰余金	18,831	18,831
利益剰余金	377,424	370,765
自己株式	△2,764	△3,937
株主資本合計	393,589	385,758
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△719	△617
為替換算調整勘定	△17,928	△16,034
退職給付に係る調整累計額	45	47
その他の包括利益累計額合計	△18,602	△16,605
新株予約権	76	76
純資産合計	375,063	369,229
負債純資産合計	510,677	530,551

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
売上高	19,545	22,638
売上原価	11,731	10,740
売上総利益	7,813	11,897
販売費及び一般管理費	12,183	15,050
営業損失(△)	△4,369	△3,152
営業外収益		
受取利息	74,508	35
受取配当金	3	8
為替差益	6,826	608
持分法による投資利益	—	408
その他	138	29
営業外収益合計	81,476	1,090
営業外費用		
支払利息	182	890
社債利息	352	1,224
支払手数料	548	265
持分法による投資損失	275	—
その他	18	43
営業外費用合計	1,377	2,424
経常利益又は経常損失(△)	75,729	△4,486
特別利益		
和解による株式償還差益	158,796	—
特別利益合計	158,796	—
特別損失		
固定資産除売却損	5	0
訴訟関連損失	1,214	—
特別損失合計	1,219	0
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	233,306	△4,486
法人税、住民税及び事業税	49,077	△3
法人税等調整額	3,131	△389
法人税等合計	52,208	△392
四半期純利益又は四半期純損失(△)	181,097	△4,093
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△305	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	181,402	△4,093

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2018年1月1日 至 2018年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年3月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	181,097	△4,093
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△109	102
為替換算調整勘定	△25,461	1,893
退職給付に係る調整額	—	1
その他の包括利益合計	△25,571	1,997
四半期包括利益	155,526	△2,096
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	155,831	△2,096
非支配株主に係る四半期包括利益	△305	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(IFRS第16号「リース」の適用)

当第1四半期連結会計期間より、一部の在外子会社においてIFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、借手は原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上しております。本会計基準の適用にあたっては、その経過的な取扱いに従い、当第1四半期連結会計期間の期首において、累積的影響を認識しております。この結果、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金が1,385百万円、有形固定資産のその他が33,467百万円、固定負債のその他が33,416百万円それぞれ増加し、建設仮勘定が7,674百万円、流動負債のその他が9,196百万円減少しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(借入費用の取得価額算入)

統合型リゾート(IR)事業に要した資金のうち、その建設資金を借入金及び社債(私募債)により調達している長期プロジェクトで、かつ、その金額が重要なものについては、建設期間中に対応する借入費用を取得価額に算入しております。

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(5) 重要な後発事象

該当事項はありません。